

## 「両羽飛虫図譜」の「蝶部一・二」

酒田市の光丘文庫に松森胤保著の「両羽博物図譜」があります。全部で59冊からなる大著ですが、山形県指定の重要文化財に指定されています。その中に「両羽飛虫図譜」8冊が含まれています。チョウとガに関するものが「蝶部一」と「蝶部二」の2冊に納められています。今回酒田市立図書館のご好意によりこの2冊をお借りして展示することが出来ました。



松森胤保の肖像

松森胤保(まつもりたねやす)(1825~1892)は、庄内藩士の家に生まれ、後年松山藩(庄内藩の支藩)の家老となっています。明治維新後は廃藩まで松嶺藩(旧松山藩)の執政、大参事を務め、明治5年の置県後は区长、旧松嶺藩校の教授、中学校長などを歴任しました。明治12年には松嶺から鶴岡に移り、県会議員、戸長、学務委員などを務めております。その後明治18年に一切の公職を退き、自適の生活に入りましたが、明治25年68歳で病没しました。

「両羽博物図譜」はすべて手書きによるもので、その執筆年代は、年記のあるもので「明治14年7月4日」が最も古く、そのころから書かれたものと思われます。そうして没年まで書きつづけられ未完に終わっています。

山形県内にもこのように自然を愛し、自然に親しんだ先人がいたことを思い、こうした先人の業績をとおして自然に対する認識を深めることが出来ればと思います。

## 展示品のあらまし

今回は県内に産するチョウとガを併せて1200種類もの標本を展示しましたので、全部を目録として掲げることが出来ません。そこで、科ごとの種類数と点数を挙げます。

チョウの仲間		
セセリチョウ科	16種	62頭
アゲハチョウ科	11	80
シロチョウ科	8	53
シジミチョウ科	34	170
テングチョウ科	1	4
マダラチョウ科	1	4
タテハチョウ科	27	95
ジャノメチョウ科	13	88
計	111	556
ガの仲間		
コウモリガ科	2種	5頭
ホクトウガ科	2	5
ハマキガ科	68	196
ホソハマキガ科	4	4
マダラガ科	2	3
イラガ科	12	32
セセリモドキガ科	1	3
マドガ科	3	9
メイガ科	141	384
カギバガ科	11	36
オオカギバガ科	2	6
トガリバガ科	22	75
シャクガ科	274	838
アゲハモドキガ科	1	3
フタオガ科	4	19
イカリモンカ科	1	8
カレハガ科	14	51
オビガ科	1	5
カイコガ科	2	8
イボタガ科	1	2
ヤママユガ科	9	28
スズメガ科	31	88
シャチホコガ科	69	220
トクガ科	22	70
ヒトリガ科	39	148
コブガ科	7	16
カノコガ科	1	3
ヤガ科	373	1,262
トラガ科	4	9
計	1,123	3,536

末筆ながら、今回の展示のためにご協力いただいた方々は次の通りです。ご協力に対して心から厚くお礼申し上げます。

酒田市立図書館(光丘文庫) 「両羽飛虫図譜」2冊

山形市 横倉 明氏 チョウ類

横浜市 柳田 慶浩氏 高山蛾

## 企画展

# 山形県のチョウとガ

1988

4月23日(土)~6月26日(日)

## 山形県立博物館

### 開催にあたって

私達の身のまわりにはどのような自然があるのでしょうか。ちょっと野山を歩いて見ても、気をつけて歩いて見ると、動物・植物、どれ一つ取ってみても、あまりにも知らないことが多いのに驚くことがあります。

今回はそれらの自然の一部を構成している多くの昆虫の中から、特に県内で見られるチョウとガを選んで展示して見ました。

私達の身のまわりにこのように多くのチョウやガがいたことに対してあらためて驚異の目を向けられることと思います。この展示をとおして自然への理解と関心を高めていただけるようにと願っています。

## 展示解説

### チョウとガ

ともに昆虫の中の鱗翅目というグループに属する仲間達です。県内には、チョウの仲間は110数種類が産します。また、ガの仲間は、何種類産するかはわかっていませんが、少なくとも2500種類を超える種類がいるものと思われまふ。ガの方が圧倒的に種類数が多いのです。今回はそれらの中から、チョウは県内産の殆ど全種類を、ガの仲間は県内産のものの中から1100種類ほどを展示しました。

一般的にチョウは美しいもの、ガはあまり美しくないものといったイメージがあります。はたしてそうでしょうか。確かにチョウは美しい種類が多くいますし、昼花に集まって蜜を吸っている風情は美しいものです。しかしながら、ガは昼はあまり姿を見せず、夜明りの回りに飛んできて、バタバタと飛び回り、鱗粉をまきちらす姿はお世辞にも美しいとは言われません。まして、ドクガの仲間には毒針毛などという、人の皮膚にささって炎症をおこすようなものもあります。このようなドクガの仲間は、沢山いるガの中でもほんの一部の種類に過ぎません。それ以外のガの仲間には毒はありません。それに、

ガの中にも非常に美しい種類が多くいることは、今回の展示したものの中にも沢山含まれているのをご覧になっていただけたと思います。同じ鱗翅目の仲間でありながら、一方は美しく、他方はそうでないというイメージは根本から変え



県内では比較的珍しいスズメガ  
(上) コエビガラスズメ  
(下) ギンボシスズメ

ていただく必要があると思います。

また、最近では自然保護の考えが普及するようになってきました。これにともなって、開発や植林などのために自然の中から姿を消しつつあるチョウなどについて保護の手を差し延べようとする機運もおきつつあります。その一環として、天然記念物に指定して保護をはかっている種類もあります。

### 天然記念物に指定されているチョウ

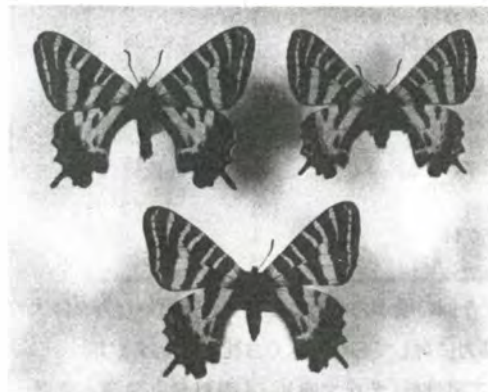
山形県指定の天然記念物にチョウセンアカシジミという小型のチョウがいます。このチョウは



県指定天然記念物のチョウセンアカシジミ  
(左) オス (右) メス

日本では岩手県の一部と山形県の一部に産するだけの学術上貴重な種類です。山形県では最初新庄市から発見されましたが、その後小国町の周辺からも発見されました。しかし、開発の波には勝てず、滅びゆく一方でした。現に県内から最初に発見された新庄市付近ではもうその姿を見ることは出来ません。そこで県ではこれを天然記念物に指定して保護をはかることにしたのです。

また、大石田町ではギフチョウとヒメギフチョウの2種類のチョウを町指定の天然記念物として保護しています。このギフチョウは日本特産のチョウ



大石田町のギフチョウ属  
(左上) ギフチョウ (右上) ヒメギフチョウ  
(下) 両種の自然交雑種

ですが、県内では庄内に広く分布しており、ヒメギフチョウの方は、内陸部に広く分布しております。そうして、

大石田町をはじめ県内数箇所はこの2種類のチョウの混生している場所が見つかっています。しかし、これら2種類のチョウもそのおなじ生息地が山麓地帯にあるため、開発や植林の影響を受けやすく、滅びゆくチョウの姿を示しています。そこで、大石田町ではその貴重な混生地として、これらのチョウを保護するために天然記念物に指定しました。しかもこの3月には罰則付きの保護条例も制定しました。

### 高山のチョウとガ

かつてこの地球が寒かった氷河期にこの日本に住み着いていた昆虫の仲間のうちのある種類は、氷河期が過ぎて地球がだんだん暖かくなると、寒い環境を求めて高い山の上に生活の場を移して行きました。そうした昆虫の仲間が、高山性の昆虫として現在に至っています。チョウの仲間では県内に生息している種類は、ベニヒカゲただ1種類だけですが、鳥海山・月山・朝日連峰・飯豊連峰に生息しています。



高山蛾のアルプスギンウワバ

ガの仲間では、現在までのところ7種類が知られています。ソウクロオビナミシヤク・クモマウスグロヤガ・ホッキョクモンヤガ・ダイセツヤガ・アルプスクロヨトウ・イイデクロヨトウ・アルプスギンウワバの7種類です。このうちイイデクロヨトウは飯豊連峰だけから知られる特産の種類です。これらの高山蛾は、高山蛾の研究者として知られる横浜市の柳田慶浩氏のご好意によりお借りして展示したものです。

### フユシヤクの仲間

ガの中には、厳しい冬に成虫の出てくる仲間がいます。いずれもシヤクガ科の仲間です。県内からはシロオビフユシヤク・フタスジフユシヤク・ナミスジフユナミシヤク・クロオビフユナミシヤク・ヒメクロオビフユナミシヤク・チャバナフユエダシヤクなど14種類が知られています。厳しい寒さの中で生活するために、口器が退化したり、メスの翅が退化するなど、特化しています。